

2015（平成27）年度

事業報告書

（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）

学校法人 武蔵野美術大学

目 次

I. 学校法人の概要

1.	建学の精神・教育理念	P 2
2.	法人及び設置学校の沿革	P 2
3.	設置する学校・学部・学科等	P 3
4.	学外施設	P 3
5.	入学者数・収容定員・学生数・定員充足率	P 4
6.	卒業・就職状況	P 5
7.	学生納付金に関する情報	P 6
8.	当該学校の所在地	P 11
9.	役員及び教職員に関する情報	P 12

II. 事業の概要

1.	重点課題の進捗状況	P 13
2.	教育関連の取組	P 18
3.	入学試験関連	P 21
4.	認証評価	P 21
5.	通信教育課程	P 22
6.	武蔵野美術学園	P 22

III. 財務の概要

1.	経年比較	P 23
2.	主な財務比率比較	P 25

I. 学校法人の概要

1. 建学の精神・教育理念

武蔵野美術大学は、1929年の創立当初から幅広い教養を備え、人格的にも優れた美術・デザインを中心とする造形各分野の専門家養成という教育理念をもち続けてきました。

それは、総合性と専門性の融合に深く留意し、「真に人間的自由に達するような美術教育」「教養を有する美術家養成」を掲げた建学の精神の堅持でもあります。

2. 法人及び設置学校の沿革

昭和 4(1929)年	帝国美術学校開校 (北多摩郡武蔵野町吉祥寺)
昭和 22(1947)年	造型美術学園と校名変更
昭和 23(1948)年	武蔵野美術学校と校名変更
昭和 32(1957)年	学校法人武蔵野美術学校認可 武蔵野美術短期大学設置
昭和 34(1959)年	短期大学通信教育部開設
昭和 36(1961)年	鷹の台校(現鷹の台キャンパス)開設
昭和 37(1962)年	学校法人武蔵野美術大学に改称 武蔵野美術大学設置、造形学部開設
昭和 44(1969)年	鷹の台キャンパスに全学統合 武蔵野美術学園開設
昭和 48(1973)年	大学院造形研究科(修士課程)を開設
昭和 63(1988)年	武蔵野美術短期大学を武蔵野美術大学短期大学部に名称変更
平成 14(2002)年	造形学部通信教育課程開設
平成 15(2003)年	武蔵野美術大学短期大学部廃止
平成 16(2004)年	大学院造形研究科に博士後期課程設置 新宿サテライト開設

3. 設置する学校・学部・学科等

理事長 天坊 昭彦

■武蔵野美術大学 学長 長澤 忠徳

大学院	造形研究科	博士前期課程（修士課程）	美術専攻
			デザイン専攻
		博士後期課程	造形芸術専攻

大学 造形学部	日本画学科	
	油絵学科	油絵専攻
		版画専攻
	彫刻学科	
	視覚伝達デザイン学科	
	工芸工業デザイン学科	
	空間演出デザイン学科	
	建築学科	
	基礎デザイン学科	
	映像学科	
	芸術文化学科	
	デザイン情報学科	

大学 造形学部 通信教育課程	油絵学科
	工芸工業デザイン学科
	芸術文化学科
	デザイン情報学科

■武蔵野美術学園 学園長 丸亀 敏邦

武蔵野美術学園	造形芸術科
	メディア表現科

4. 学外施設

- ・新宿サテライト（東京都新宿区）
- ・gallery αM（東京都千代田区）
- ・武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ（東京都港区）
- ・奈良寮（奈良県奈良市）
- ・清里山荘（山梨県北杜市） *2015年8月閉寮
- ・五箇山「無名舎」（富山県南砺市）
- ・パリ国際芸術都市アトリエ（フランス）

5. 入学者数・収容定員・学生数 (2015年5月1日現在)

■武蔵野美術大学

【大学院 造形研究科】

専攻	1年次生数	収容定員	学生数	収容定員充足率*
博士前期課程 美術専攻	48	56	108	1.93
博士前期課程 デザイン専攻	63	56	132	2.36
小計	111	112	240	2.14
博士後期課程 造形芸術専攻	2	18	11	0.61
大学院 合計	113	130	251	1.93

【大学 造形学部 通学課程】

学 科	入学者数	収容定員	学生数	収容定員充足率*
日本画学科	43	160	167	1.04
油絵学科	147	584	628	1.08
彫刻学科	36	132	137	1.04
視覚伝達デザイン学科	106	422	460	1.09
工芸工業デザイン学科	137	556	581	1.04
空間演出デザイン学科	125	500	500	1.00
建築学科	84	330	345	1.05
基礎デザイン学科	78	302	329	1.09
映像学科	87	350	368	1.05
芸術文化学科	83	326	339	1.04
デザイン情報学科	104	400	415	1.04
合 計	1,030	4,062	4,269	1.05

【大学 造形学部 通信教育課程】

学 科	1年次生数	収容定員	学生数	収容定員充足率*
油絵学科	87	980	1,139	1.16
工芸工業デザイン学科	32	735	369	0.50
芸術文化学科	18	490	439	0.90
デザイン情報学科	58	735	533	0.73
合 計	195	2,940	2,480	0.84

*収容定員充足率・・・学生数÷収容定員

■武蔵野美術学園

科	収容定員	学生数
造形芸術科	210	99
メディア表現科	190	25
合 計	400	124

6. 卒業・就職状況 (2016年5月1日現在)

【大学院 造形研究科】

専 攻	学位授与数	就職希望者数	就職者数	進学者数
博士前期課程 美術専攻	57	14	12	3
博士前期課程 デザイン専攻	58	38	30	2
小 計	115	52	42	5
博士後期課程 造形芸術専攻	4	3	2	0
大学院 合計	119	55	44	5

【大学 造形学部 通学課程】

学 科	学位授与数	就職希望者数	就職者数	進学者数
日本画学科	43	16	16	10
油絵学科	162	70	62	43
彫刻学科	29	8	8	13
視覚伝達デザイン学科	118	84	72	5
工芸工業デザイン学科	141	97	88	17
空間演出デザイン学科	105	57	48	10
建築学科	85	51	48	12
基礎デザイン学科	85	54	48	6
映像学科	91	50	45	4
芸術文化学科	74	38	36	10
デザイン情報学科	90	70	64	1
小 計	1,023	595	535	131

【大学 造形学部 通信教育課程】

学 科	学位授与数
油絵学科	110
工芸工業デザイン学科	22
芸術文化学科	29
デザイン情報学科	21
小 計	182

7. 学生納付金に関する情報 (2015 年度)

1. 学費などについて

【大学院 造形研究科 博士後期課程】

	新入生	在学生
入学金	180,000	
授業料	1,185,000	1,185,000
実習費	-	-
維持費	30,000	30,000
施設費	300,000	300,000
合計	1,695,000	1,515,000

注)1 入学金については、通常の金額を記載。減免適用者については、別項「入学金減免について」を参照。

注)2 実習費は徴収しない。

【大学院 造形研究科 修士課程】

	新入生	在学生
入学金	180,000	—
授業料	1,185,000	1,185,000
実習費		
日本画	33,000	33,000
油・版画	52,500	52,500
彫刻・映像・写真・デ情	65,500	65,500
視デ	39,500	39,500
工デ	57,500	57,500
造美・空デ・建築・基デ・芸文	29,500	29,500
維持費	30,000	30,000
施設費	300,000	300,000
合計		
日本画	1,728,000	1,548,000
油・版画	1,747,500	1,567,500
彫刻・映像・写真・デ情	1,760,500	1,580,500
視デ	1,734,500	1,554,500
工デ	1,752,500	1,572,500
造美・空デ・建築・基デ・芸文	1,724,500	1,544,500

注) 入学金については、通常の金額を記載。減免適用者については、別項「入学金減免について」を参照。

【大学 造形学部】

①入学金及び授業料等

	新入生・編入生	在学生
入学金	360,000	—
授業料	1,185,000	1,185,000
実習費		
日本画	33,000	33,000
油・版画	52,500	52,500
彫刻・映像・デ情	65,500	65,500
視デ	39,500	39,500
工デ	57,500	57,500
空デ・建築・基デ・芸文	29,500	29,500
維持費	30,000	30,000
施設費	300,000	300,000
合計		
日本画	1,908,000	1,548,000
油・版画	1,927,500	1,567,500
彫刻・映像・デ情	1,940,500	1,580,500
視デ	1,914,500	1,554,500
工デ	1,932,500	1,572,500
空デ・建築・基デ・芸文	1,904,500	1,544,500

注) 入学金については、通常の金額を記載。減免適用者については、別項「入学金減免について」を参照。

②科目等履修生・委託学生・教職課程履修費等

(1) 科目等履修生(一般)

登録料	45,000
受講料	
講義	34,500
実技演習	69,000
実習費	3,500
選考料	10,000

注) 受講料・実習費は1単位当りの額。

(2) 科目等履修生(教職課程及び学芸員課程)

本学の卒業生で教員免許取得及び学芸員資格取得を目的とする科目等履修生

登録料	45,000
受講料	
講義	3,450
実技演習	6,900

実習費	3,500
教育実習費	10,000
介護等体験費	14,000
博物館実習費	21,000
選考料	10,000

注)1 受講料・実習費は1単位当りの額。

注)2 本学大学院に在籍している者は登録料を免除する。

(3) 委託学生

登録料	45,000
受講料	
委託学生 A	
講義	34,500
実技演習	69,000
委託学生 B	
1年以内	592,500
6か月以内	296,250
実習費	
委託学生 A	3,500
委託学生 B	実費
選考料	10,000

委託学生A… 授業科目の受講を目的とする者。

委託学生B… 受入研究室及び担当教員の指導に基づき、本人の研究テーマについて修学することを目的とし、授業科目の受講を主たる目的としない者。

注)1 委託学生Aの受講料及び実習費は1単位当りの額。

注)2 委託学生Bの実習費は、実習費用が伴う場合、その都度実費を本人が負担する。

(4) 学籍継続者(卒業延期者)

在籍料	65,000
受講料	
講義(一般)	17,250
講義(教職・学芸員)	5,500
実技演習	34,500
実習費	3,500

注)1 在籍料の算定は5,000円単位とし、その中間金額を超える場合は切上げを行う。

注)2 在籍料は前期(半期)のみの在籍の場合、半額の32,500円とする。

注)3 受講料・実習費は1単位当りの額。

(5) 教職課程履修費及び学芸員資格取得に係る履修費

教職課程履修費(登録料)	24,500
学芸員履修費(登録料)	21,000

【大学 造形学部 通信教育課程】

(1) 入学金及び授業料

学科名	学 年	入学金	授業料	計
油絵学科	1 年次	30,000	285,000	315,000
	2 年次		285,000	285,000
	3 年次		285,000	285,000
	4 年次		285,000	285,000
工芸工業デザイン学科	1 年次	30,000	285,000	315,000
	2 年次		285,000	285,000
	3 年次		285,000	285,000
	4 年次		285,000	285,000
芸術文化学科	1 年次	30,000	285,000	315,000
	2 年次		285,000	285,000
	3 年次		285,000	285,000
	4 年次		285,000	285,000
デザイン情報学科	1 年次	30,000	285,000	315,000
	2 年次		285,000	285,000
	3 年次		285,000	285,000
	4 年次		285,000	285,000

注)1 編入学生に係る入学金は 30,000 円。

注)2 武蔵野美術大学(別科を含む)、武蔵野美術大学短期大学部(通信教育部を含む)、武蔵野美術短期大学(通信教育部を含む)、武蔵野美術学校、武蔵野美術学園等の卒業生及び中退者は、入学金(編入学金)を免除。武蔵野美術大学造形学部通学課程からの転籍者も入学金を免除。

(2) 面接授業受講料

鷹の台校・吉祥寺校・新宿教室で開催	左記以外の地方会場で開催
<ul style="list-style-type: none"> ・講義科目は 1 単位につき 8,000 円 ・講義科目以外の授業科目は 1 単位につき 13,000 円 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義科目は 1 単位につき 10,000 円 ・講義科目以外の授業科目は 1 単位につき 16,000 円

(3) 教職課程履修費

① 教育職員免許法第 5 条第 1 項別表第 1 による場合	114,000
② 教育職員免許法第 6 条第 2 項別表第 3 及び別表第 8 による場合	57,000
③ 教育職員免許法第 6 条第 3 項別表第 4 による場合	57,000

(4) 学芸員課程履修費

69,000 円

(5) 科目等履修生

① 科目等履修生(一般)

登録料	40,000
受講料 (1単位当りの額)	
講義科目	12,000
講義科目以外	18,000
考查料	10,000

② 科目等履修生(教職生) 教育職員免許法第6条別表第3及び別表第8による場合

登録料	40,000
受講料 (1単位当りの額)	
講義科目	8,400
講義科目以外	12,600
考查料	10,000

③ 科目等履修生(教職生) 教育職員免許法第6条別表第4による場合

登録料	40,000
受講料	319,000
考查料	10,000

④ 科目等履修生(特修生)

登録料	40,000
受講料 (1単位当りの額)	
講義科目	12,000
講義科目以外	18,000
考查料	10,000

【武蔵野美術学園】

登録料	施設費	授業料	実習費	維持費	保険料	合計
90,000	52,500	360,000	52,500	30,000	900	585,900

2. 入学金減免について

【大学院 造形研究科 博士後期課程】

減免適用者	入学金
本学造形学部卒業後他大学大学院修士修了見込者	半額
本学造形学部卒業後他大学大学院修士修了者	半額
本学大学院修士修了見込者	徴収しない
本学大学院修士修了者	徴収しない

注)1 本学短期大学卒業者の中には、専攻科修了後学位授与機構において学士の学位を得た者を含む。

注)2 短期大学部及び造形学部には、通信教育課程を含む。

【大学院 造形研究科 修士課程】

減免適用者	入学金
本学造形学部卒業生	半額
本学造形学部卒業見込者	半額
本学大学院修了者	半額
本学大学院修了見込者	半額

【大学 造形学部】

入学区分	減免適用者	入学金
1年次入学	本学短期大学卒業生	半額
	本学造形学部卒業生	半額
	本学造形学部卒業見込者	半額
3年次編入学	本学短期大学卒業生	半額
	本学造形学部卒業生	半額
	本学造形学部卒業見込者	半額
転籍	本学通信教育課程からの転籍者	半額

注) 転科・転専攻は、在学生の本学造形学部内での学籍異動なので、入学金は徴収しない。

8. 当該学校の所在地

鷹の台キャンパス

法人本部、武蔵野美術大学造形学部（通学課程）、大学院
〒187-8505 東京都小平市小川町 1-736

吉祥寺校

武蔵野美術大学造形学部通信教育課程、武蔵野美術学園
〒180-8566 東京都武蔵野市吉祥寺東町 3-3-7

新宿サテライト（新宿教室）

〒163-0609 東京都新宿区西新宿 1-25-1 新宿センタービル 9階

9. 役員及び教職員に関する情報

①役員に関する情報（2016年3月31日現在）

■法人役員(理事9名、監事2名)	■評議員	25名
理事長	天坊昭彦	
学長・理事	長澤忠徳	
理事	木村修三	
理事	富松保文	
理事	長沢秀之	
理事	中島信也	
理事	古河直純	
理事	宮崎 晋	
理事	向山卓二	
監事	小川昭夫	
監事	幸島祥夫	

②教職員に関する情報（2015年5月1日現在）

■武蔵野美術大学教職員数	
専任教員	137名
・職位内訳	: 教授124名、准教授11名、専任講師2名
・年齢内訳	: 30代8名、40代14名、50代63名、60代52名
客員教授	31名
助手	53名
非常勤講師	690名
教務補助員	63名
事務系職員	183名（専任77名、嘱託58名、長期臨時48名）
■武蔵野美術学園教職員数	
教員	3名
非常勤講師	10名
副手	4名
事務系職員	3名（嘱託1名、長期臨時2名）

II. 事業の概要

学校法人武蔵野美術大学は、平成26年3月26日に開催された理事会において、平成26年度から平成33年度までの第1次中長期計画を策定した。同中長期計画では、18歳人口が安定的に推移する平成26年度から平成29年度までの4年間を第一期、安定期を経て再び減少を始め減少速度が加速する平成30年度から平成33年度までの4年間を第二期と位置づけ、明確なミッション、ビジョンのもと、第一期の間にビジョン実現の基礎を確立することを目指している。

なお、本中長期計画は、法人を取り巻く諸状況の変化や事業構想の進捗状況等により逐次修正を図るものとし、第一期末（平成29年度末）には、その間の評価・総括のもと、第二期の計画見直しを行うものとする。

1 重点課題の進捗状況

平成27年度は、今後8年に渡る第1次中長期計画の2年目に当たり、事業計画に重点課題として設定した主要8項目について検討・実施を進めた。その進捗状況は、以下のとおりである。

【平成27年度重点課題】

- (1) 教育研究組織の改編等
- (2) 教育環境充実に向けたキャンパス整備
- (3) 美術館・図書館機能の充実
- (4) 国際化の推進
- (5) 学生支援の充実・強化
- (6) 研究支援・社会連携推進、美術教育の普及、美術文化の振興
- (7) 広報活動の強化
- (8) 法人組織力の強化

(1) 教育研究組織の改編等

① 武蔵野美術大学について

学長を座長とする新たな会議体（構成メンバー：学長、学長補佐、各教育単位の主任教授等）を設置し、通学、通信、大学院を含む教育研究組織全体の諸改革に向けての検討を開始した。

② 武蔵野美術学園について

(ア) 平成29年度末（平成30年3月31日）をもって閉園することを決定した。

(イ) 平成29年度春季学生を受け入れることを最後として募集を停止し、すでに在籍している学生への教育責任を終えて閉園するものとした。

(2) 教育環境充実に向けたキャンパス整備

① 都心キャンパス

本学全体の今後の様々な教育展開の可能性を展望しうる都心キャンパスの候補地について、検討を進めた。

② 鷹の台キャンパス

北校地整備では14号館、南北地下通路、危険物庫、ボンベ庫、守衛室（北校地2箇所）及び廃棄物集積場が竣工し、陶磁工房、工房-1・2を解体撤去して道路用地を引き渡した。なお、小平333号線に面した外構工事及び植栽の移植については、平成28年度に実施予定の道路築造工事の進捗にあわせて実施することとなる。

また、5A号館については外壁補修・屋上（屋根）防水第2期工事（全3期）を行うとともにエレベータ設置工事を実施し、8号館については平成28年度後期の利用開始に向けて1階西側に設置予定の（仮称）共用工作センターのための改修工事に着手した。

設備については12号館の老朽化した空調設備及び照明設備を省エネに対応した高効率機器へ更新し、1号館についても一部先行して同様の更新工事を実施した。

(3) 美術館・図書館機能の充実

美術館では年間9回、図書館では1回、民俗資料室では2回の展覧会を開催し、延べ62,000人を超える入場者があった。また、美術館では小・中・高等学校教職員を対象とした展覧会案内や当館近代椅子コレクションを紹介するワークショップを開催し、本学と当館の存在を広く社会にアピールすることに努めた。図書館とイメージライブラリーの年館開館日数を増やし、学習図書充実などと併せて教職員及び学生への利用サービスの拡充を図ると共に、学生が図書館をより利用しやすくなるように図書館活用ガイダンスを前期と後期それぞれにおいて開催した。また研究室との連携による授業利用の促進に努めた。

造形研究センターについては、平成25年度文科省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業において採択された第1プロジェクト「近現代建築資料のデジタル・アーカイブ化と、その利活用の手法研究」及び第2プロジェクト「生活デザインのデジタル・アーカイブ化と、その生活文化空間の総合的研究への応用」を推進した。また、平成26年度同事業において採択された第3プロジェクト「日本近世における文字印刷文化の総合的研究」を推進した。

また、新たに文化庁「アーカイブ中核拠点形成モデル事業」の委託を受け、プロダクトデザイン分野における国内主要所蔵機関の調査やネットワーク構築を開始した。

(4) 国際化の推進

芸術系大学として唯一採択された平成24年度文科省「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援（旧グローバル人材育成推進事業）」において、平成27年度及び補助対象最終年度となる平成28年度の各種数値目標達成に向け、同プログラムを下

記のとおり推進した。

- ① 事業推進のための海外協力機関の拡大を目指し、協定締結候補校をリストアップ、交渉を行い、新たに国立インドデザイン大学(インド)、王立アントワープ美術大学(ベルギー)と協定締結し、計 32 校となった。
- ② 英語による学科別専門科目を増設し、前年の 37 科目から 48 科目(前期・後期)とした(「本年度開講せず」を含む)。
- ③ インタラクシオン交流ルーム(iRoom)を活用し、グローバルコンテンツのアーカイブを作成するとともにグローバル双方向授業を実施した。
- ④ 英語履修者に対しプレースメントテストを実施した。
- ⑤ TOEFL ITP テストの学内受験を年 4 回実施した。
- ⑥ 学生のグローバル志向を高めるための各種施策として、卒業生など海外留学経験者の生のアドバイスを聞くランチトークを 8 回開催し、のべ 157 名が参加した。
- ⑦ 自らの言葉で自身の作品を海外に向け発信するのに必要な英語力とスキルを身に付けることを目的とし、美術・デザインに関するプレゼンテーション能力の向上を目指す英語講習会を 2 回(8 月・3 月計 7 日間)開催、38 名の参加があった。
- ⑧ 校友会との連携によりアラムナイ・グローバル・サポーター制度が発足 3 年目で、14 名の卒業生より支援の登録を得ている。
- ⑨ 明治大学で行われた GGJ EXPO に参加した(12 月)。
- ⑩ 教員の FD 語学研修を 2 名、グローバル海外研修を 1 名に実施した。
- ⑪ 平成 27 年度の語学外国短期留学海外語学研修を開設、イギリスに学生を派遣した(9 名、2 月-3 月)。
- ⑫ 国際ワークショップ「Global Design Initiative(GDI)」の第 2 回 GDI Germany 2016 を実施した。(3 月)
- ⑬ 『グローバルキャリアデザイン』科目を 231 名が履修、179 名が単位を取得した。

(5) 学生支援の充実・強化

① 授業料減免制度の拡充

学ぶ意識を強く持ちながらも経済的理由により修学が困難な学生を援助し修学を奨励するため、「武蔵野美術大学経済的支援授業料減免規則」を平成 27 年 4 月 1 日に施行した。初年度となる平成 27 年度は、規則に定める人数の上限である、220 名に学費減免を実施した。

また昨年度に引き続き、東日本大震災を含む災害救助法が適用された災害について、学費減免等の支援を行った。特に東日本大震災については、一度支援を行った学生に対して、家計の回復が見込めず修学を継続することが困難な場合は、継続して支援を行った。

② 学生対応窓口の充実

教務・学生生活関連の事務室窓口については、試験的に昼休み閉室を廃止し、学生対応の充実を試みた。平成 28 年度も同様の試みを継続する。

③ 進路・就職支援の強化

ア ガイダンス・セミナーの開催

- (ア) 進路・就職ガイダンスとして、5月の第一回及び9月の学科別のほかに、就職活動時期の変更決定に伴い緊急ガイダンスを実施し、学生の理解促進に努めた。また、第一回ガイダンス時に学部3年生、修士1年生向けにハンディータイプの冊子「就職ガイドブック」を配付した。
 - (イ) 総合職理解講座、グループディスカッション講座等の多彩なセミナーを開催した。また、学外で行われる他美大および他大学を交えたグループディスカッション講座の開催に協力した。その他にUターン・Iターン講座や留学生向けのガイダンスを初めて実施した。
 - (ウ) OB、OGを中心に年間100社を超える会社セミナー・説明会を実施した（計127社）。また、3年生・4年生向けに合同会社説明会を開催した（計12日・約200社）。
 - (エ) 作家活動を志す学生へ向けて、現役作家等による様々な角度からの講演会（作家活動支援プログラム）を年間7回開催した。
- イ 海外インターンシップの実施
- 米国・シアトル市近郊を中心に、3カ所の企業・団体において計5名のインターンシップを実施した。また、新たにベトナム・ホーチミン市の1企業へ1名を派遣した。期間はいずれも約1カ月間。
- ウ 通信生への進路支援の充実
- 通信教育課程の学生に対する進路・就職支援として、通信教育グループとの連携により、キャリアチームが実施する行事への通信生参加を可能としたり、夏期スクーリング期間中のキャリア・カウンセラーによる面談を実施した。

(6) 研究支援・社会連携推進、美術教育の普及、美術文化の振興

① 研究支援・社会連携の推進

ア 科研費申請・採択件数の増加

科学研究費補助金について、平成27年度は新規採択2件・継続11件の合計13件となった。平成28年度の更なる科研費申請・採択に向けて、教授会での説明、スタッフの研修参加、間接経費の活用、本学独自のパンフレット「科研費基礎ガイド」作成等を行った。

イ 産官学共同・委託研究の推進

産官学共同・委託研究を20件実施し、6点の成果物の商品化が検討された。研究の数と質の向上に向けて、知財管理・活用の仕組みづくりや特許インセンティブ獲得方法の検討を進めた。また、造形総合Ⅱ類科目「産官学共同プログラムⅠ・Ⅱ」を平成28年度に新規開設し、内容に応じて単位付与を可能とした。

② 美術教育の普及、美術文化の振興

ア 公開講座等 (ア)～(エ)については、東京ミッドタウン・デザインハブにて開催

(ア) 長澤忠徳学長自らが美大の魅力について語るトークイベント「学長トーク」を計7回実施した。

(イ) 公開講座「Explore the Design」(全5回)を開催した。また、8月には「MIDTOWN♡SUMMER 2015」「東京ミッドタウン・デザインハブキッズウィーク 2015」に参加し、本学企画としてワークショップを全6回実施した。

- (ウ) 11月「GOOD DESIGN EXHIBITION2015」期間中に、「グッドなデザイン・ラウンジ」を開催した（展示、イベント及び全3回のワークショップ）
 - (エ) 第50回企画展「ラーニング・アーキテクチャー2015 | 建築、学びの冒険—大学の建築設計課題の動向展」を11月に開催した。
 - (オ) αMプロジェクトについて、千代田区東神田の gallery αMにおいて「資本空間 - スリー・ディメンショナルロジカル・ピクチャーの彼岸」を年間7回の企画展として開催した
 - (カ) 小平市上宿公民館にて市民向け公開講座「美大のとなりの暮らし」を計8回行った。
 - (キ) 伊勢丹新宿本店において、本学推薦の卒業生・大学院生による展示・販売会「武蔵野美術大学×伊勢丹『U-35 若手クリエイターによるアート・デザインの現在』」を実施した。
- イ 美術教育普及・振興プロジェクト
- 本学独自の活動として全国各地の学校や美術館で展開する「旅するムサビ・プロジェクト」や小・中学生を対象とするワークショップ等に取り組むとともに、「旅するムサビ・プロジェクト」のページを本学WEBサイトに新設した。

(7) 広報活動の強化

① 広報戦略会議の設置

事務組織の改編に伴い、法人企画グループに広報チームが位置付けられ、理事長・学長を中心とする広報戦略会議が新たに組織された。広報戦略会議のもとに、IR推進室、広報連絡会議、ブランディング検討室という3つの専門組織を置き、法人・大学の基本計画に係る情報収集や分析、広報関連業務に係る情報共有や調整、法人・大学のブランディング戦略の検討を行った。

② 学生募集活動等の充実

本学の学生募集活動の中核をなすイベントであるオープンキャンパスを、鷹の台キャンパスにて6月と8月に計4日間開催し、総数で10,000名を超える来場者があった。また、入試ガイド等の低学年向けツールの充実を図り、高校1・2年次生のアプローチを強化したことに加え、本学学生による「ムサビ学生広報局」を立ち上げ、「ムサビュー」と銘打った公開プレゼンテーションや大学紹介を行うミニオープンキャンパスを4度開催した。

(8) 法人組織力の強化

学校法人武蔵野美術大学内部監査規則に則り、経常費補助金及び公的研究費にかかる内部監査を実施し、監査の結果、指摘を受けた事項について被監査部署は改善措置を講じた。

また、大学を取り巻く諸状況の変化に速やかに対応できるよう、職員人事諸制度を見直すとともに学務事務組織の改編を行うことで法人組織力の強化を図った。

2 教育関連の取組

- ① 全学生が履修可能なコンピュータ関連科目を全面的に見直し、カリキュラムを刷新した。初年度の取組みとして、造形総合Ⅱ類科目「情報表現Ⅰ・Ⅱ」を開設した。引き続き「情報表現Ⅲ～Ⅹ」を順次開設する予定である。
- ② 造形総合Ⅱ類科目「インターンシップⅠ・Ⅱ」の開設及び関連規則の制定を検討し、平成28年度からの実施が具体化するに至った。
- ③ カリキュラムを継続的に検証するため、昨年度に引き続き、卒業年次生に対してカリキュラムアンケートを実施した。
- ④ 「ムサビのこれからを語り合う～ムサビの危機をどう乗り越えるか～」をテーマに、全学研修会を実施した。
- ⑤ 前期研究集会「魂の深淵を開く」（遠藤彰子教授）、後期研究集会「鉄仏はなぜ造られたのか？— 鑄造技法と荘厳を中心に—」（朴亨國教授、黒川弘毅教授）を実施した。
- ⑥ 第39回東京五美術大学連合卒業・修了制作展を国立新美術館で開催した。
- ⑦ 大学教育の質的向上を目的に、教育改革に資する本学教員の取組に対して経費を助成する「武蔵野美術大学教育改革助成」制度を創設した。（平成28年度より実施）
- ⑧ 聴覚障害を持つ学生に対するノートテイク支援を行った。
- ⑨ 国内外のアーティストやデザイナー、研究者を招いた課外講座を計63回実施した。（実施した講座名及び講師の一覧については、下記参照）
- ⑩ 講義科目「キャリア設計基礎」を前期と後期に開講。常見陽平講師や進路指導専門委員会により適切な基礎教育を実施した。
- ⑪ 国際交流プロジェクトを7本実施し、41名の学生が単位取得（5月決定見込み含む）した。
- ⑫ 協定校プロジェクトとしてボザール（パリ、フランス）へ学生と教員を派遣し、ワークショップ等を行った。
- ⑬ 平成27年度自校史教育検討ワーキングチーム主催の企画展を3回開催した。
- ⑭ 共用コンピュータ室（12号館）の機材を全面的に更新した。
- ⑮ 教務、生活支援、進路情報、図書館の各システムを管理しているサーバー等の機材を全面的に更新した。また、ソフトについても一部更新を行った。

*⑨課外講座一覧

- 4月7日 「ニコラス・ボヤースキー氏講演会」講師：ニコラス・ボヤースキー（建築家）
- 4月27日 「INSTIGATOR #012」講師：小山薫堂（放送作家・脚本家・プロデューサー）
- 4月27日 「オランダ・デザインの20世紀— デ・ステイルから、ドローク、現代まで—」
講師：ライヤー・クラス（元アムステルダム市立美術館デザイン部主任キュレーター、インダストリアルデザイナー）
- 4月27日 「明日から一流になる／考え方と準備」講師：倉本仁（プロダクトデザイナー）
- 5月13日 「フィンランドのグラフィックデザイン教育からみた世界のグラフィックデザイン」講師：カリ・ピッポ（グラフィックデザイナー）

- 5月15日「サービスデザイン：手業なきデザイン？」講師：ニコラス・ローズ（ロンドン芸術大学セントラル・セントマーチンズ・カレッジプログラムディレクター）
- 5月18日「講義集会」講師：山縣良和（writtenafterwards ファッションデザイナー）
- 5月18日「ノートテイカー養成講座」講師：高橋りか（東京手話通訳等派遣センター職員）
- 5月21日「手話 初歩の初歩 3回講演」講師：柳匡裕（「手話教師センター」手話教師アドバンスド plus）
- 5月25日「書物がひらくルネサンスーヴァチカン教皇庁図書館展から」講師：樺山紘一（印刷博物館館長、本学客員教授）
- 5月25日「51% と 49%」講師：松井守男（洋画家）
- 6月1日「『食』から始まるデザイン」講師：岩佐十良（株式会社自遊人代表取締役）
- 6月4日「イメージと物語」講師：中嶋莞爾（映画監督）
- 6月8日「内側からのデザイン」講師：三浦秀彦（デザイナー）
- 6月9日「ダチョウ牧場での教育」講師：並木大治（オーストリッチハウス並木屋オーナー）
- 6月11日「制作活動、作曲方法についてのレクチャーとパフォーマンス」講師：ヤープ・ブロンク（作曲家）
- 6月15日「富永昌敬監督の作品世界」講師：富永昌敬（映画監督）
- 6月17日「『ストローベールハウス（藁の家）』の構造と作り方 持続可能な家を考える」講師：大岩剛一（建築家、成安造形大学前教授）
- 6月18日「～間 ma とは～」講師：横内さゆみ（コンテンポラリー・ジュエリーアーティスト）
- 6月22日「インテトク第4弾『デザインの消化』」講師：角田陽太（プロダクトデザイナー）
- 6月25日「ドキュメンタリー『隠れた遺産：日系アメリカ人強制収容所の伝統芸能』上映会&ドキュメンタリー制作者および作品の語り手によるトーク」講師：タカヨ・ツボウチ・フィッシャー（女優）、シャーリー・カズヨ・ムラモト（ドキュメンタリー制作者・パフォーマー・琴の指導者）、早稲田みな子（東京藝大非常勤講師）
- 6月25日「アトリエ・フィダルガーサンパウロのアーティストたち」講師：サンドラ・シント（現代美術作家）、アルバーノ・アフォンソ（現代美術作家）
- 6月25日「海外で仕事をするということ」講師：浦田秀穂（撮影監督）
- 6月29日「曲豊国氏課外講座」講師：曲豊国（作家）
- 6月29日「都美術館のキュレーション」講師：河合晴生（東京都美術館元学芸員）
- 6月29日「1+1=無限大『障がい者の芸術』をとりまくニューヨークのアートフェアとその市場」講師：森井あす香（障害者アート・キュレーター、米国法人 ltruart, Inc. ファウンダー兼 CEO）
- 7月2日「INSTIGATOR #013」講師：真鍋大度（株式会社ライゾマティクス取締役・アーティスト・プログラマー）

- 7月3日「『スズキハスラー』デザインの秘密」講師：服部守悦（元スズキ自動車デザイン部長、静岡文化藝術大学准教授）
- 7月6日「書と現代アート」講師：潘微（アーティスト・書道家）
- 7月10日「INSIGHT-A PERSONAL VIEW OF FASHION」講師：アンドリュー・バジール（Basile Creative Services 代表、クリエイティブディレクター）
- 7月13日「国際映画祭のショート・サーキット」講師：阿部マーク・ノーネス（ドキュメンタリー映画研究者、ミシガン大学教授）
- 9月3日「デザインの本当の意味」講師：土田貴宏（デザインジャーナリスト）
- 9月4日「古代ギリシアのブロンズ彫刻——2015年夏開催の三つの特別展」講師：羽田康一（東京藝術大学美術学部非常勤講師）
- 9月7日「tupera tupera の世界」講師：亀山達矢／tupera tupera（アーティストユニット）
- 9月14日「GO PUBLIC：パブリック・アート&ネットワーク芸術」講師：ミヒャエル・ビエリスキ（作家、カールスルーエ造形大学 HFG メディアアート学科主任教授）
- 9月17日「木下晋のまなざし-鉛筆の世界を語る-」講師：木下晋（画家）
- 9月17日「ソフィー・クレールの仕事」講師：ソフィー・クレール（デザイナー）
- 9月21日「Irma Boom: Boom on Books」講師：イルマ・ボーム（ブックデザイナー）
- 9月24日「＼川俣正 自作にそって＼」講師：川俣正（美術家・パリ国立高等学校教授）
- 9月28日「商店街をギャラリーにして芸術祭を」講師：林僚児（アーティスト、展示ディレクター）
- 10月1日「絵画はいかにして現代を生きているのか、そして未来に伝えるために」講師：岩井希久子（㈲IWAI ART 保存修復研究所代表取締役・絵画保存修復家）
- 10月15日「自由の幾何学」講師：日詰明男（造形作家/基礎デザイン学科特別講師）
- 11月2日「複数の視点から」講師：菰田和世（プロダクトデザイナー）
- 11月2日「アキッレ・カスティリオーニの展示空間デザイン」講師：多木陽介（演出家、アーティスト、批評家）
- 11月5日「イアン・ウー氏の作品とその制作」講師：イアン・ウー（画家、ラサール・カレッジ・オブ・アート教授）
- 11月5日「The tale of the city | 街の物語」講師：ローレンス・マドリール（デザイナー）
- 11月9日「著作権についての課外講座」講師：福井健策（弁護士）
- 11月12日「Context and Function」講師：安積伸（プロダクトデザイナー）
- 11月12日「EMBA' S BARCELONA バルセロナの都市史と3つの公共空間をめぐるプロジェクト」講師：エンリック・マシップ・ボッシュ（建築家）
- 11月12日「ラース・ミュラー アナログリアリティー」講師：ラース・ミュラー（デザイナー、出版者）
- 11月16日、11月30日「和太鼓の感動と表現の力」講師：平野和弘（一般社団法人 Moonlight Project 代表、武蔵野美術大学非常勤講師）和太鼓集団 「響」の演奏家4名
- 11月17日「INSTIGATOR #014」講師：HIRO（アーティスト・プロデューサー）

- 11月19日「Rematerialisation of Systems」講師：ロベルト・フェオ、ロザリオ・フルタド（プロダクトデザイナー）
- 11月27日「サム・デュラント氏の作品を巡って」講師：サム・デュラント（アーティスト・カリフォルニア芸術大学 上級講師 Senior Lecturer）
- 12月3日「コンサート『バンドネオンの記憶』」講師：早川純（バンドネオン奏者）、久保田美希（ピアニスト）、吉田篤（バイオリニスト）
- 12月3日「違和感を形にする」講師：下道基行（写真家・美術家）
- 12月3日「いち・に・さん・たくさん」講師：束芋（美術家）
- 12月4日「食肉と場の仕事と差別」講師：栃木裕（都立芝浦屠場労組委員長）、大川成三（都立芝浦屠場労組書記）
- 12月7日「監督するとは？」講師：土井敏邦（フリージャーナリスト、映画監督）、林勝彦（科学ジャーナリスト、映画「いのち」監督）
- 12月7日「1970～80年代のインテリアデザイン『アートとデザインの間(はざま)で』」講師：森豪男（インテリアデザイナー、本学名誉教授）、鈴木紀慶（編集者、本学非常勤講師）
- 12月7日「第56回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館 塩田千春《掌の鍵》にみるインスタレーション展示」講師：中野仁詞（学芸員）
- 12月10日「人形浄瑠璃の源流『阿波木偶（でく）箱まわしの世界』」講師：辻本一英（芝原生活文化研究会(阿波木偶箱まわし保存会)代表）、阿波木偶箱まわし保存会
- 12月10日「歩く。1973-2015」講師：山田正好（彫刻家）

3 入学試験関連

- ① 造形学部一般入試、公募制推薦入試、3年次編入学試験において新たにWEB出願システムを導入した。これにより、博士後期課程入試を除くすべての入学試験において、WEB出願方式となった。
- ② 一般入試において、全体の志願者は6,762名と昨年の志願者数7,039名と比較し、277名、3.9%の減少となった。
- ③ 公募制推薦入試は、実施した全学科の総数で前年比15%以上の志願者増となった。
- ④ 外国人留学生特別入試、大学院修士課程入試においては、主に中国からの留学希望者が増え、大きく志願者を伸ばした。

4 認証評価

平成20年度に引き続き、平成27年度に公益財団法人大学基準協会に第2回目となる大学評価（認証評価）を申請し、平成27年10月に2日間にわたり実地調査が実施された。その結果、平成28年3月に公益財団法人大学基準協会の「大学基準に適合している」と認定された。なお、認定期間は平成28年4月1日～平成35年3月31日までとなる。

5 通信教育課程

- ① 動画配信システムの開発を実施し、スクーリング補助プログラム（オンラインプラス）の講義動画の撮影、編集を行い平成 28 年度スクーリングより配信開始となった。
- ② 平成 28 年度学習指導書の見直しを行った。
- ③ 教科書保管、配送業務委託先を変更し、業務委託費の削減を図った。
- ④ 通信授業指導給等支給取扱内規および面接授業指導給等支給取扱内規の改正を実施した。
- ⑤ 平成 28 年 4 月の学生募集より編入学資格に関する課程規程の改正を行った。
- ⑥ 学生募集用の学科別パンフレット（油絵学科・芸術文化学科）を新たに作成し、全国の美術館、ギャラリー、図書館、公民館等社会教育施設に配付した。
- ⑦ 本学デザイン・ラウンジや吉祥寺校において入学相談会を実施し多数の参加者を得た。また入学相談会では体験授業、ギャラリーツアー等を実施し、より効果的な募集活動に努めた。

6 武蔵野美術学園

- ① 学生募集について、週 2 日制を含む在籍者数は平成 27 年度 4 月次在籍生数 212 名に対して平成 28 年度 4 月次在籍生数はほぼ前年並みの 211 名となった（別途トライアル受講生 39 名）。
- ② オープンセミナーの開講数は、前年度を 25 講座上回る計 141 講座となった。
- ③ 5 年目となる **The SIZE SIX** 展を開催し、出品料とオークション売上を、武蔵野市を通じて東日本大震災義援金として寄付した。出品作品は、学園生・大学卒業生・一般市民を含め 148 点となった。
- ④ 9 月にオープンキャンパス及び学園祭を同時開催した。オープンキャンパスにあわせて、ちひろ美術館学芸員による特別講演を実施した。
- ⑤ 「井の頭 100 祭」に協力し、同祭に武蔵野美術学園学生ブースを設置、アート作品販売等により市民との交流を行った。
- ⑥ 平成 27 年度より絵画専攻に「水彩・パステルコース」を開設し、13 名が受講した。
- ⑦ 武蔵野市立千川小学校の卒業式・入学式にあわせて学園生の作品を展示した。
- ⑧ 武蔵野市健康福祉部主催「食育月間ポスターデザイン作成」に協力した。
- ⑨ 新宿サテライトにおいて、修了制作選抜展に合わせて鍛鉄作家・トリアスリート西田光男氏の特別講演会を開催した。

以 上

Ⅲ. 財務の概要

1. 経年比較

平成26年度以前の決算額は、改正後の学校法人会計基準の様式に基づき、区分及び科目を組み替えて表示している。

(1) 貸借対照表

(単位:千円)

科 目	平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末	本年度末
固定資産	38,541,360	41,406,404	42,960,822	44,718,223	44,882,267
流動資産	8,626,048	8,264,359	6,903,735	5,545,828	5,941,974
資産の部合計	47,167,408	49,670,764	49,864,557	50,264,051	50,824,241
固定負債	1,746,767	1,633,797	1,703,255	1,790,149	1,865,177
流動負債	2,781,217	4,170,952	3,807,542	3,710,653	4,270,840
負債の部合計	4,527,984	5,804,749	5,510,796	5,500,803	6,136,017
基本金	41,767,439	41,476,693	42,944,389	44,953,920	47,791,473
繰越収支差額	871,985	2,389,322	1,409,372	△ 190,672	△ 3,103,249
純資産の部合計	42,639,424	43,866,014	44,353,761	44,763,248	44,688,224
負債及び純資産の部合計	47,167,408	49,670,764	49,864,557	50,264,051	50,824,241

(2) 収支計算書

① 資金収支計算書

(単位:千円)

科 目	平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末	本年度末	
収入の部	学生生徒等納付金収入	8,355,437	8,312,633	8,165,171	8,135,840	8,149,357
	手数料収入	228,356	216,170	195,443	206,116	208,420
	寄付金収入	52,510	78,822	50,538	60,102	56,742
	補助金収入	977,115	883,281	932,250	789,641	835,490
	資産売却収入	0	824,339	0	0	0
	付随事業・収益事業収入	90,806	80,161	77,127	88,545	112,972
	受取利息・配当金収入	24,613	33,781	60,002	106,083	49,334
	雑収入	231,131	233,674	182,397	89,321	101,621
	借入金等収入	0	0	0	0	0
	前受金収入	1,956,262	3,093,498	1,969,067	1,939,761	1,990,529
	その他の収入	547,320	470,980	384,488	357,558	3,183,865
	資金収入調整勘定	△ 2,199,070	△ 2,238,575	△ 2,202,321	△ 2,060,993	△ 2,023,393
	前年度繰越支払資金	7,194,759	8,150,509	7,741,087	6,317,261	5,093,555
	収入の部合計	17,459,241	20,139,274	17,555,249	16,029,234	17,758,492
支出の部	人件費支出	4,773,935	4,790,932	4,657,096	4,604,853	4,566,612
	教育研究経費支出	2,418,269	2,654,430	2,533,822	2,492,314	2,912,212
	管理経費支出	815,950	831,170	788,619	780,628	758,699
	借入金等利息支出	0	0	0	0	0
	借入金等返済支出	0	0	0	0	0
	施設関係支出	566,874	319,983	1,457,131	2,165,359	3,898,239
	設備関係支出	284,088	248,904	288,210	263,827	447,975
	資産運用支出	651,786	3,791,729	1,127,344	544,007	179,190
	その他の支出	557,773	750,318	987,295	645,123	538,470
	資金支出調整勘定	△ 759,944	△ 989,280	△ 601,529	△ 560,432	△ 1,089,132
	翌年度繰越支払資金	8,150,509	7,741,087	6,317,261	5,093,555	5,546,227
	支出の部合計	17,459,241	20,139,274	17,555,249	16,029,234	17,758,492

②事業活動収支計算書

(単位:千円)

科 目		平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末	本年度末	
教育活動	収入の部	学生生徒等納付金	8,355,437	8,312,633	8,165,171	8,135,840	8,149,357
		手数料	228,356	216,170	195,443	206,116	208,420
		寄付金	52,695	79,018	50,538	60,102	56,742
		経常費等補助金	964,663	880,952	834,441	771,302	773,406
		付随事業収入	90,806	80,161	77,127	88,545	112,972
		雑収入	231,131	233,674	182,397	89,321	101,167
		教育活動収入計	9,923,089	9,802,608	9,505,118	9,351,226	9,402,064
	支出の部	人件費	4,681,225	4,605,670	4,644,366	4,588,832	4,551,219
		教育研究経費	3,434,524	3,706,650	3,525,324	3,506,341	3,881,707
		管理経費	929,642	948,121	899,227	897,763	875,880
		徴収不能額等	0	0	0	0	0
		教育活動支出計	9,045,390	9,260,440	9,068,917	8,992,936	9,308,806
		教育活動収支差額	877,699	542,169	436,201	358,289	93,257
	教育活動外	収入の部	受取利息・配当金	24,613	33,781	60,002	106,083
その他の教育活動外収入			0	0	0	0	0
教育活動外収入計			24,613	33,781	60,002	106,083	49,334
支出の部		借入金等利息	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0	0	0
		教育活動外収支差額	24,613	33,781	60,002	106,083	49,334
経常収支差額		902,312	575,950	496,203	464,373	142,591	
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	722,694	0	0	0
		その他の特別収入	14,760	9,454	110,126	40,517	99,618
		特別収入計	14,760	732,148	110,126	40,517	99,618
	支出の部	資産処分差額	6,154	211	37,342	14,402	235,939
		その他の特別支出	88,316	81,296	81,241	81,000	81,294
		特別支出計	94,471	81,507	118,583	95,402	317,233
		特別収支差額	△ 79,711	650,641	△ 8,457	△ 54,885	△ 217,615
基本金組入前当年度収支差額		822,601	1,226,591	487,746	409,487	△ 75,024	
基本金組入額合計		△ 437,058	△ 111,533	△ 1,467,696	△ 2,009,758	△ 3,096,617	
当年度収支差額		385,543	1,115,058	△ 979,950	△ 1,600,271	△ 3,171,641	
前年度繰越収支差額		486,442	871,985	2,389,322	1,409,372	△ 190,672	
基本金取崩額		0	402,279	0	227	259,063	
翌年度繰越収支差額		871,985	2,389,322	1,409,372	△ 190,672	△ 3,103,249	

(参考)

事業活動収入計	9,962,462	10,568,537	9,675,246	9,497,826	9,551,015
事業活動支出計	9,139,861	9,341,946	9,187,500	9,088,338	9,626,039

2. 主な財務比率比較

事業活動収支計算書及び貸借対照表から、本学の過去5年間の財務比率を計算し下表に示した。なお、平成26年度以前の比率は、改正後の学校法人会計基準の様式に基づき、区分及び科目を組み替えた金額で算出している。また、「評価」欄は日本私立学校振興・共済事業団による評価を、「芸術系学部平均」欄は芸術系20法人の平成26年度の平均値を表したものである。ただし、新会計基準への組み替えにおいて、*経常収入は帰属収入、*経常支出は消費支出で算出している。(いずれも日本私立学校振興・共済事業団編『今日の私学財政』平成27年度版による。)

(1) 事業活動収支計算書関係財務比率

比率	算式(×100)	評価	H23年度末	H24年度末	H25年度末	H26年度末	本年度末	芸術系学部平均
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入計}}$	△	8.3%	11.6%	5.0%	4.3%	△0.8%	4.6%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{*経常収入}}$	～	84.0%	84.5%	85.4%	86.0%	86.2%	73.5%
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入計}}$	△	0.6%	0.8%	0.6%	0.9%	1.0%	0.8%
経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{*経常収入}}$	△	0.5%	0.8%	0.5%	0.6%	0.6%	-
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入計}}$	△	9.8%	8.4%	9.6%	8.3%	8.7%	10.1%
経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{*経常収入}}$	△	9.7%	9.0%	8.7%	8.2%	8.2%	-
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{*経常収入}}$	▼	47.1%	46.8%	48.6%	48.5%	48.2%	53.6%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{*経常収入}}$	△	34.5%	37.7%	36.9%	37.1%	41.1%	30.9%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{*経常収入}}$	▼	9.3%	9.6%	9.4%	9.5%	9.3%	10.0%
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{*経常収入}}$	▼	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入計}}$	△	4.4%	1.1%	15.2%	21.2%	32.4%	11.0%
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{*経常支出}}$	～	11.5%	11.7%	11.6%	12.0%	11.2%	12.9%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	▼	56.0%	55.4%	56.9%	56.4%	55.8%	72.9%
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入-基本金組入額}}$	▼	96.0%	89.3%	111.9%	121.4%	76.1%	107.2%
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{*経常収入}}$	△	9.1%	5.9%	5.2%	4.9%	1.5%	-
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	△	8.8%	5.5%	4.6%	3.8%	1.0%	-

(2) 貸借対照表関係財務比率

比率	算式(×100)	評価	H23年度末	H24年度末	H25年度末	H26年度末	本年度末	芸術系学部平均
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{負債+純資産}}$	△	90.4%	88.3%	88.9%	89.1%	87.9%	90.9%
繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{負債+純資産}}$	△	1.8%	4.8%	2.8%	-0.4%	△6.1%	△6.8%
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	▼	90.4%	94.4%	96.9%	99.9%	100.4%	96.7%
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産+固定負債}}$	▼	86.8%	91.0%	93.3%	96.1%	96.4%	92.2%
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	▼	81.7%	83.4%	86.2%	89.0%	88.3%	87.9%
有形固定資産構成比率	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	▼	56.6%	52.4%	53.4%	55.6%	61.0%	54.3%
特定資産構成比率	$\frac{\text{特定資産}}{\text{総資産}}$	△	20.5%	19.6%	20.4%	21.1%	21.1%	-
流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	△	18.3%	16.6%	13.8%	11.0%	11.7%	12.1%
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	△	310.2%	198.1%	181.3%	149.5%	139.1%	258.0%
退職給与引当特定資産保有率	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	△	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	70.9%
固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{負債+純資産}}$	▼	3.7%	3.3%	3.4%	3.6%	3.7%	4.4%
流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{負債+純資産}}$	▼	5.9%	8.4%	7.6%	7.4%	8.4%	4.7%
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	▼	9.6%	11.7%	11.1%	10.9%	12.1%	9.1%
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	▼	10.6%	13.2%	12.4%	12.3%	13.7%	10.1%
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	△	122.0%	139.6%	130.2%	119.9%	105.8%	-

[評価] △高い値が良い ▼低い値が良い ～どちらともいえない

運用資産=現金預金+特定資産+有価証券

要積立額=減価償却累計額+退職給与引当金+2号基本金+3号基本金